

# 青刈り サイレージ

# ライ麦の栽培と利用

## ☒ ライ麦の栽培要点

- ① 適土壤 乾燥地～やや湿潤地に適し、過湿地では生育不良。  
pH 5～7。
- ② 施肥量 (10 a 当たり基準量)  
堆厩肥 3 t, チッソ 5 kg, リンサン 8 kg, カリ 8 kg。
- ③ 播種期 寒冷地・高冷地…… 9月～10月。  
暖地………10月～11月。
- ④ 播種量 (10 a 当たり)  
散播 (バラ播き) 6～8 kg。  
条播 5～6 kg。
- ⑤ 刈取時期  
青刈り………出穂前。2～3回。  
サイレージ……出穂期～乳熟期。

## ☒ ライ麦の利用のポイント

**青刈り** ライ麦が再生力旺盛で、耐寒性強いことを利用し、晩秋の青刈り (イタリアンライグラスよりも遅くまで刈取り可能) で1～2回刈り、また春季には2～3回刈りできます。  
堆厩肥および化学肥料を多めに施し、刈取り毎に追肥中耕をくり返すことが、多収をあげるポイントです。  
硝酸態チッソの弊害防止のため、リンサン、カリ、クド、石灰を十分に施用することも大切です。

**サイレージ** ライ麦は出穂期以後に茎が硬化しますが、乾物収量が多収であり、またサイレージ品質も比較的良好です。  
サイレージ品質は水分含量によって左右される場合が多く、下表のとおり、ライ麦は出穂期ころは水分が多過ぎる (最適水分は70～75%) ので、刈取り後に半日～1日、畑で予乾をして、カッターで2～3 cmに細切しサイロ詰めすることがポイントです。  
乳熟期ころには茎が硬化して嗜好性が悪くなり、また在圃日数が長くなるため、出穂期ころがサイレージ利用の収穫適期です。



ライ麦の栄養価

|       | 原 物 中 (%) |     |     |        |     |     | 原 物 中 (%) |     |      | 乾物中 (%) |      |
|-------|-----------|-----|-----|--------|-----|-----|-----------|-----|------|---------|------|
|       | 水 分       | 粗蛋白 | 粗脂肪 | 可溶無窒素物 | 粗繊維 | 粗灰分 | DM        | DCP | TDN  | DCP     | TDN  |
| 出 穂 前 | 87.1      | 3.0 | 0.8 | 4.7    | 2.9 | 1.5 | 12.9      | 2.3 | 9.3  | 17.8    | 72.1 |
| 出 穂 期 | 83.5      | 2.2 | 0.7 | 7.2    | 5.1 | 1.3 | 16.5      | 1.5 | 11.5 | 9.1     | 69.7 |
| 乳 熟 期 | 77.1      | 2.0 | 0.7 | 11.1   | 7.3 | 1.8 | 22.9      | 1.1 | 13.7 | 4.8     | 59.8 |